

身の回りの放射線を実感～東通中学校『環境・エネルギー教室』開催～

東北電力では、地域の未来を担う子どもたちが、のびのびと成長できる環境づくりのために、さまざまな活動を行っています。今回のPSつうしんでは、その活動の一環として開催した、東通中学校『環境・エネルギー教室』の様相を紹介します。

東通原子力発電所は、平成22年1月26日(火)・27日(水)、東北放射線科学センターの工藤博司氏(同センター理事、東北大学名誉教授)、滝沢洋一氏(同センター教育研修部長)を講師としてお招きし、放射線の種類や性質などを正しく理解していただきたいとの思いから『環境・エネルギー教室』を東通中学校において開催しました。

この教室は、東通村が独自に取り組んでいる東通科(エネルギー教育、郷土教育など)のカリキュラムの一つとして、東通村教育委員会および東通中学校からの依頼により実施することとなったものです。



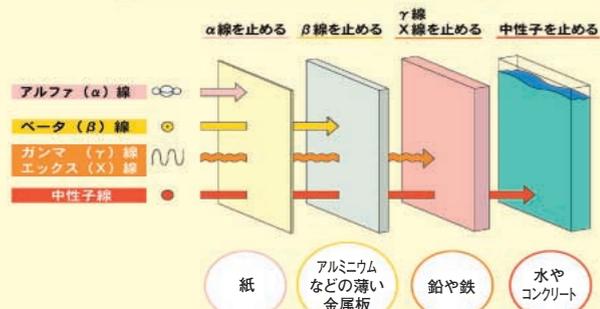
「霧箱」作成に興味津々の生徒たち



放射線にはいろいろな種類があるんだ!

～講話内容を一部ご紹介～

放射線の種類と透過力



放射線にはいくつかの種類があります。その種類によって物を通り抜ける力も違ってきますが、いろいろな物質で放射線を遮ることができます。また、放射線は病院のX線検査など医療分野での利用のほか、工業や農業など、私たちの暮らしの身近なところで幅広く利用されています。

初めに工藤先生から、地球温暖化問題やエネルギー事情、そして身の回りの放射線や放射線の作用・種類などについて、イラストなどを用いながら、わかりやすく説明していただきました。生徒の皆さんは、真剣な眼差しで聞き入り、環境やエネルギー対策の必要性和、放射線がさまざまな分野で活用され、日常生活の中でも深くかかわっていることなどについて理解を深めていました。

講話の後、滝沢先生の指導のもと、一人ひとりがプラスチック製の容器を使って霧箱※をつくり、放射線の飛跡の様子を観察したり、放射線測定器(ベータちゃん)で自然放射線や御影石などの放射線量を測定する実験を行いました。生徒の皆さんが興味を持ち、楽しく取り組んでいる姿がとても印象的でした。

※1 霧箱とは、ドライアイス等を用いて放射線の飛跡を見る装置

～実験の様子～

霧箱づくり



生徒全員が一生命「霧箱」を作成しました

放射線(α線)観察



ひこうき雲のような白い線(放射線の飛跡)が見え、実験成功

各種線源の放射線量を測定



距離によって測定値も変わるんだね!

これからも東通原子力発電所では、さまざまな活動を通じて、子供たちの健やかな成長を応援してまいります。

発電所トピックス

迅速かつ的確な初動対応を再確認 「東通原子力発電所 管理区域内消防訓練」実施

東通原子力発電所では、2月23日(火)、東通消防署の協力により、放射線管理区域内における火災を想定した消防訓練を実施しました。

今回の訓練は、火災発生時における通報連絡体制の再確認や東通消防署員の放射線管理区域内への誘導・入退域など、東通消防署との連携強化を図ることを目的として実施したものです。



初期消火にあたる作業員



火災現場の消火活動へ向かう東通消防署員

当発電所では、これからも継続して訓練を行い、いざという時に迅速・適切な対応ができるよう取り組んでまいります。

エネルギー一コマ 3月25日は電気記念日

明治11年(1878年)3月25日、東京に電信中央局が新築され、完成を祝う祝賀会が、工部大学校(現在の東京大学工学部)で開催されました。その祝賀会において工部大学校教授のエアトン氏が、日本で初めてとなるアーク灯を点灯させました。

社団法人日本電気協会は、昭和2年(1927年)、日本に初めて電気が灯った日として、3月25日を『電気記念日』と制定しました。

日本に電気が初めて灯ってから132年が経ちました。普段何気なく使っている電気について、省エネや地球温暖化防止の観点から、見つめなおしてみませんか。

電気記念日シンボルマーク



このマークは、昭和43年に公募にて決定し、手のひらで光をかこぶ形と電球の形をあらわしています。